いちのみやの芸術文化

ICHINOMIYA Arts and Culture Association

三月三日行の詩碑

- 特集「維新後の漢詩壇を牽引した森春濤」
- 加入団体の紹介
- これからの催し
- 平成23年の展示をみる

2012.3

第20号

一宮市芸術文化協会

一宮を学ぶ 特集

『維新後の漢詩壇を牽引した森（もり）春（しゅん）濤（とう）』

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

三月三日行の詩碑

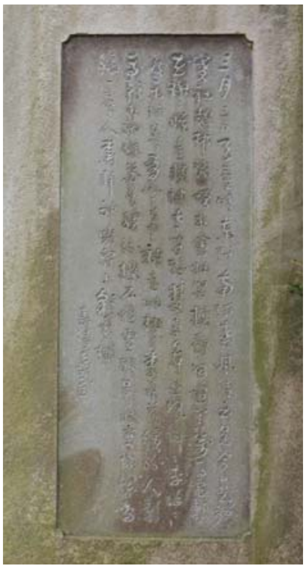
市内公園通四丁目の真清田（ますみだ）神社御旅所（おたびしょ）に大きな自然石に刻まれた詩碑が建っています。【表紙写真】最初、昭和十六年（1941）に真清（ますみ）公園内に建てられましたが、名古屋地方裁判所一宮支部の建設によって、昭和三十一年（1956）真清田神社西にあった一宮市体育館南側に移設されました。やがてこの体育館も廃止され、一宮スポーツ文化センター建築工事が始まった昭和五十二年（1977）三月十九日に現在地に移りました。

碑文は、明治維新後、東京で活躍した森春濤（1819〜89）が明治十六年（1883）故郷一宮に帰った折、後の初代一宮町長　土川弥七郎（つちかわやしちろう）宅で揮毫した「書」を陰刻したものです。

内容は、旧暦三月三日に真清田神社で行われる桃花祭を詠んだ漢詩で、「三月三日行」と題され、春濤二十二歳の時に制作されました。

［※行は「うた」と読み、漢詩の一体で古詩に属し長編詩の形式をいう。］

祭りの当日（現在は四月三日）各町内より飾り馬（馬の頭、山車馬とも）がこの御旅所の真清田神社一の鳥居前に集結し、ここから妙興寺村を第一として順次神社本殿へ向けて行進し、祭りの最後を飾ります。



▶《三月三日行》詩碑（一宮市公園通四丁目）

◀《風雨踰函嶺》詩碑（一宮市大江川緑道）

《三月三日行》読み下し文

三月三日天氣晴	三月三日天気晴れ
東阡南陌春風清	東阡南陌春風清し
云是今日是神賽	云う是れ今日是れ神賽
社鼓村笛笑相會	社鼓村笛笑って相会す
壯兒攘臂何喧闐	壮児臂を攘げて何ぞ喧闐
萬馬電影花斑々	万馬電影花斑々
妖堂揚袂太閒雅	妖堂袂を揚げて太だ閒雅
雙車舞態風僊々	双車の舞態風仙々
車徐々度樂行奏	車徐々に渡り楽行く奏す
有似春雲離遠岫	似る有り春雲の遠岫を離るるに
桃花李花落繽紛	桃花李花落ちて繽紛
人影馬影相馳驟	人影馬影相馳驟す
花落繽紛撲石壇	花落ち繽紛として石壇を撲つ
靈旗影轉寶珠闌	霊旗影は転ず宝珠闌
鳴鏑一聲人肅拝	鳴鏑一声人粛拝す
神輿昇上彩雲端	神輿昇き上す彩雲の端

［※漢詩の読み下し文は、いずれも『森春濤詩抄』後藤利光著（昭和五十五年刊）による。］

▲ 森春濤
『一宮市史』(昭和14年刊)による

詩三昧の生涯

文政二年（1819）一宮村に生まれた春濤は、岐阜の眼科医で医術を学びながら作詩に熱中し、早くも十五歳で「岐阜竹枝」を詠みました。その後、丹羽村の万松亭（後の有隣舎）で鷲津松隠の教えを受け、跡を継いだ鷲津益斎、その子毅堂、大赤見村服部牧山ら七名と共に天保十一年（1840）に「尾陽不休社」を結成、詩宴を繰り広げました。

▶有隣舎　昭和13年頃（一宮市丹羽）

嘉永三年（1850）京都に出て梁川星巌を訪ね、翌年には藤本鉄石と交遊、その年の夏初めて江戸に上り、万松亭で同窓だった大沼枕山（父竹渓は有隣舎初代鷲津幽林の長子で幕臣大沼家の養子となった）を訪ね、小野湖山・遠山雲如・鈴木松塘らとも交友を深めました。「風雨踰函嶺（風雨、函嶺を踰ゆ）」は、江戸への途上、箱根の関所で詠んだもので、枕山が激賞したという、春濤三十三歳の作品です。

春濤の交友関係は他に頼支峰・頼三樹三郎・家里松嶹・池内大学そして斎藤拙堂などがあり、多くは国事に奔走していましたが、文久三年（1863）に医業をやめ詩に専念、名古屋に「桑三軒吟社」を開いて永坂石埭・丹羽花南・神波即山・永井禾原など百余人の門弟を得ました。その後、一時尾張藩校・明倫堂で教鞭をとっていましたが、明治六年に岐阜上今町に移住、翌七年十月、東京で医を開業していた名古屋時代の門人永坂石埭らの招きにより、東京下谷御徒町に居を構え「茉莉吟社」を開きます。

翌年『東京才人絶句』を編集刊行。ついで機関紙として漢詩専門雑誌『新文詩』を創刊。これらが次々と好評を得て、春濤は忽ち漢詩壇の寵児となって名声を博し、しばしば太政大臣三条実美の宴に招かれ、明治二十一年には伊藤博文に招かれて交友を深めるなど、明治前期の漢詩壇に揺ぎ無い地位を築いたのでした。

三男・槐南

三男の森槐南は、明治十四年太政官に出仕、二十一年枢密院属となった後、図書寮編修官、式部官、東大講師を歴任。幼時から父の薫陶を受けて詩を良くし、「星社」「随鴎吟社」の盟主を務め、枕山・春濤亡き後明治漢詩壇の第一人者となりました。

（一宮市三岸節子記念美術館　学芸員　毛受英彦）

※《風雨踰函嶺》読み下し文

長槍大馬亂雲間　長槍大馬乱雲の間
知是何侯述職還　知る是れ何侯の述職して還るを
淪落書生無氣焔　淪落の書生気焔無く
雨衫風笠度函關　雨衫風笠函関を渡る

▲《風雨踰函嶺》
春濤65歳、1883年の揮毫
一宮市博物館蔵

加入団体の紹介　木曽川絵画同好会（きそがわかいがどうこうかい）　（洋画部門）

私達の会は、今から35年前に木曽川町の「木曽川絵画クラブ」として発足し、9年後に木曽川町の二つの教室と、同好の士も含めて「木曽川絵画同好会」を結成しました。

講師の「自由に個性を伸ばす」という指導のもと、油彩・水彩・絵手紙など、描く絵画のジャンルも広げております。会員は年々増加して現在は36名で、年2回のスケッチ旅行など楽しく活動しています。また、長年おこなっている木曽川市民病院、黒田小学校への絵画展示によるボランティア活動は、大変喜ばれ私達も嬉しい限りです。

発表の場としては、毎年9月に開催される「尾西展」に参加しています。他にも木曽川文化団体協議会に所属して、11月に開催する「木曽川町文化祭」に力作を出品し、好評を頂いています。

また、初夏には24年にわたり開催してきました「木曽川絵画同好会展」のかわりに、昨年から本会と寺西洋二先生主宰の絵画教室（一宮市シルバー人材センター開催の5教室・彩の会水彩画教室）が合同で美術展を開催しています。

会員の中には初めて絵筆をとる人もいますが、講師から親切でわかりやすく指導していただけるので、誰でも気軽に参加できます。10代から70代までの幅広い会員達の笑いの絶えない教室です。ぜひ、一度お気軽に覗いて見てください。

◀秋の白川郷スケッチ旅行

【問合せ先】徳田　清昭　✆86－1509

加入団体の紹介　池坊尾西玉香会（いけのぼうびさいぎょくこうかい）　（華道部門）

生け花は礼儀作法を大切にし、四季折々の草花などを花器に挿し、美しさやいのちの尊さを表現し、観賞する日本の伝統的な芸術です。

私達は、花が好きな仲間が集まり、楽しく生け花を行っております。お稽古は日曜日の午前や火曜日の午後など、月３回ほど講師の自宅で行っており、いろいろな花形を学んでいます。作品は、玄関や床の間など、普段目に付く場所に置かれ、家族や友人達にも喜ばれます。

発表の場は、毎年秋に尾西市民会館で開催される「尾西華道展・お茶会」や市内デパート等で開催される「池坊愛知支部花展」などがあります。会員は、自分の作品を見ることで達成感と安堵感を覚え、他の作品を見ることによって「より良い作品をつくるため、大変勉強になる。」と次へむけての原動力を得ています。

昨年、テレビで東日本大震災後の跡地に、小さな花をつけた水仙が映し出されていました。きっと、その自然の強い生命力に、多くの方が感銘を受けられたと思います。花の素晴らしい力を・・・。

今後とも私達は、花々から季節の変化と安らぎを感じるとともに、稽古を通して、技術の向上と会員相互の親睦を図りたいと思います。

生け花に興味がある皆さん。是非、身の回りの花で、心豊かな生活を過ごしませんか。

◀新年会にて

【問合せ先】赤林　和子　✆62－8458

加入団体の紹介 清の琴（さやのこと）・ロマンスハープ （器楽部門）

私達は、尾西を中心に活動している琴城流大正琴のグループです。平成17年5月に尾西南部生涯学習センターで「清の琴」と「ロマンスハープ」の２つのグループが“大正琴ミニコンサート”を行ったことがきっかけで一緒に活動するようになり、「清の琴・ロマンスハープ」を結成しました。

会員みんな音楽が大好きで、色々なジャンルの曲に挑戦し、全員で楽しんで活動しています。会員は30代から60代後半と幅広く、年齢を越えた繋がりを大切にしています。

毎年秋に開催される尾西市民会館での「尾西芸能祭」や尾西歴史民俗資料館での「もみじ祭り」などに、塚本里美先生の御指導の下、楽しく出演しています。また、老人会や子供達の前での演奏会、介護福祉施設等への慰問演奏にも積極的に出演しています。音色に合わせて歌ったり手拍子をしていただいたりして、楽しいひと時を過ごすことができ、更に次に向けての意欲が湧いてきます。

“誰でもやさしく楽しく弾ける”という琴城流の基本理念のとおり、大正琴の楽譜は数字譜ですので、どなたでも手軽に始められます。練習は隔週火曜日に尾西南部生涯学習センターで、木曜日に玉野つどいの里で行っています。

何か趣味を持ちたい方は、ぜひ一度見に来てください。

◀尾西南部生涯学習センターにて

【問合せ先】堀田　清子　✆69－0358

加入団体の紹介 神山女性句会（かみやまじょせいくかい） （俳句部門）

私達の会は、平成9年に神山公民館の女性学級で開催された俳句講座の卒業生が、まだまだ俳句を作りたいとの思いにより「神山女性句会」として結成されました。

講師は俳句講座でもお世話になった春日井誠先生に引き続きお願いし、新たに木村たか先生にもお願いして、15名ほどのメンバーで活動が始まりました。

投句は一回に五句を持ち寄り、参加する度に漢字や季語を覚えつつ俳句作りを楽しみながら、14年の歴史を築き上げてきました。現在は毎月第1と第3土曜日の午後１時30分から神山公民館で、毎回先生を囲み、井戸端会議のような楽しい俳句教室を行っています。

毎年秋には、一宮俳句協会主催の俳句大会に参加し、普段とは違った仲間達との句会は初心に戻り、自分の俳句を見直す良いきっかけになると共に、交流を深める良い機会になっています。新年会・忘年会・吟行会などの楽しい行事もあり、先生や仲間たちと共に有意義な一時を過ごし、2月には神山公民館の作品展に、好きな句を色紙に書き展示しています。

俳句がお好きな方、ぜひ一緒に楽しみましょう。お気軽に声をかけてください。

◀神山公民館にて

【問合せ先】寺西　まつ子　✆44－1260

文化情報

「ヒナゲシ」　早川尚彦

《市および市内公共施設の催し》

一宮市博物館　☎(46)3215

特別展「火事と喧嘩は江戸の華～火消装束～」

日時◎4月28日(土)～6月3日(日)
午前9時30分～午後5時
（入館は午後4時30分まで、月曜休館、月曜日が休日の場合は翌日休館、以下同じ）

内容◎墨コレクションの中から、大名火消が用いた華やかな火消装束を展示するとともに、江戸時代の消防活動について紹介します。

観覧料◎一　般　200円
高大生　100円
小中生　50円
※市内小中生・65歳以上無料（以下同じ）

企画展「馬と人々の暮らし」

日時◎6月16日(土)～7月29日(日)
午前9時30分～午後5時

内容◎一宮市大毛沖遺跡からは、木製の鐙が出土しています。本企画展では、馬がどのように人々の暮らしにかかわってきたかを紹介します。

三岸節子記念美術館　☎(63)2892

常設展「三岸節子　花の贈りもの」

日時◎4月10日(火)～7月16日(祝)
午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで、月曜休館）

内容◎最晩年の桜の作品など生涯にわたって描かれた花の作品を中心に展示。

観覧料◎一　般　320円
高大生　210円
小中生　110円
※市内小中生・65歳以上無料

特別展「三岸黄太郎展　―ふたりのミギシコウタロウと節子と―」

日時◎5月12日(土)～6月24日(日)
午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで、月曜休館）

内容◎三岸好太郎・節子の長男・黄太郎の秀作を父、母の作品とともに展示し、共通の資質やこの画家ならではの個性をさぐります。

観覧料◎一　般　600円
高大生　300円
小中生　150円
※市内小中生・65歳以上無料

尾西歴史民俗資料館　☎(62)9711

企画展「新収蔵品展」

日時◎4月28日(土)～5月27日(日)
午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで、月曜休館、月曜日が休日の場合は翌日休館）

内容◎美濃路起宿で薬屋を営んでいた旧家から寄贈していただいた薬関係の資料を中心に紹介します。

観覧料◎無料

一宮市芸術文化協会加入団体の催し

『市民短歌教室』

【問合せ先　真清短歌会】
☎(62)4654

日時▼4月8日(日)・6月10日(日)
午後1時～
会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼真清短歌会委員により実作指導します。（初心者歓迎）
参加料▼無料
申込み▼当日直接会場

『春の市民短歌吟行会』

日時▼5月11日(金) 午前9時～
行先▼花フェスタ記念公園他
対象▼どなたでも
参加料▼2,000円(昼食付き)
申込み▼4月20日(金)までに事務局
☎(84)0013へ連絡

『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳連盟】
☎(45)6702
日時▼4月14日(土)・5月12日(土)・6月9日(土) 午後1時～
会場▼葉栗公民館
内容▼各自10句持参、互選により優秀作を記録に残します。
(初心者歓迎)
参加料▼無料

『市民川柳教室』

【問合せ先 一宮川柳社】
☎(77)4536
日時▼4月22日(日)・5月27日(日)
6月24日(日) 午後1時～
会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼自由吟および課題吟を一宮川柳社委員が指導します。
(初心者歓迎)
参加料▼無料
申込み▼当日直接会場

『市民俳句教室』

【問合せ先 一宮市俳句教室】
☎(73)5504
日時▼4月22日(日)・5月27日(日)
6月24日(日) 午後1時～
会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼当季雑詠3句を一宮市民俳句教室委員が指導します。
(初心者歓迎)
参加料▼無料
申込み▼当日直接会場

『春の市民俳句吟行会』

日時▼5月29日(火) 午前9時～
行先▼中部国際空港セントレア他
対象▼どなたでも
参加料▼2,000円(昼食付き)
申込み▼5月17日(木)までに事務局
☎(84)0013へ連絡

『春季謡曲大会』

【問合せ先 一宮謡曲同好会】
☎(62)0966
日時▼4月22日(日) 午前9時30分～
会場▼産業体育館
内容▼素謡、連吟、仕舞等の発表
入場料▼無料

『石刀まつり』

【問合せ先 一宮民俗芸能連盟】
☎(73)5221
日時▼4月22日(日)
会場▼石刀神社(今伊勢町馬寄)
内容▼山車からくり・献馬

『コットンデザイン展』

【問合せ先 尾張もめん伝承会】
☎(78)1530
日時▼4月23日(月)～28日(土)
午前9時～午後4時30分
(28日は午後4時まで)
会場▼愛知県デザインセンター
内容▼昔ながらの技法で織り上げた縞木綿作品の展示
入場料▼無料

『サロンコンサート』

【問合せ先 一宮音楽家協会】
☎(87)2827
日時▼5月13日(日)
午前11時～
会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼一宮音楽家協会会員による演奏会
入場料▼無料

『2012 一宮総合美術展』

【問合せ先 生涯学習課】
☎(84)0013
日時▼6月7日(木)～10日(日)
午前10時～午後5時
(10日は午後4時30分まで)
会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼日本画、洋画、彫刻・立体、デザイン、工芸、書、写真の作品展示
入場料▼無料

《県文化協会連合会の催し》報告

愛知県文連西尾張部芸能大会

12月11日(日)、津島市文化会館を会場に、西尾張部に所属する12市町村の各文化協会の団体により、愛知県文連西尾張部芸能大会が開催されました。本協会からも芳美会の皆様が出演し、舞踊を披露いたしました。

日頃の練習の成果を出しきろうとする想いが伝わる大変素晴らしい発表でした。

一宮市博物館
陣羽織展や絹谷幸二展など 多彩な展覧会を開催

一宮市博物館では、市制90周年にあたる本年度も、市民の皆様に美術作品などの精華をご観覧いただけるよう多彩な展覧会を開催いたしました。展覧会の中には、地元の作家の方々のご理解とご協力をいただき、開催させていただいたものもありました。今後とも、美術振興のため皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

「市制90周年記念特別展 墨コレクション ～武士のファッション・陣羽織展」

江戸時代から近代までの530点にのぼる毛織物を集めた墨コレクションの中から、武士が戦場での装いとして華を競った陣羽織を集め展示しました。

4月29日から6月5日まで開催した展覧会では、陣羽織など60点を出品しました。

▲ 陣羽織展

海外から輸入され、陣羽織に仕立てられた毛織物が持つ独特の色、風合いなどは歴史愛好者のみならず地元の織物業の方々をも惹きつけてやまないものでした。

「企画展 硯ことはじめ ～文房具のルーツをさぐる～」

古代から現代にいたる硯の変化を生産地である尾張・美濃地方と消費地である都を対比しつつ6月18日から7月31日まで展示しました。硯のかたちの変化ばかりでなく、南蛮文化にかかわる文房具や硯にかかわる伝承、現代の伝統工芸としての文房具も併せて紹介をしました。書道のさかんな当地方において専門家のみならず、一般の方も興味をひく内容で、皆さんじっくりと観覧されていました。

「2011一宮美術作家協会展」

9月3日から18日まで、一宮美術作家協会の60人の会員作家の、最新の発想・イメージで制作された作品73点が展示されました。会場には、作家の思いが込められた力作が並び、個性豊かな作風をご観覧いただきました。

「一宮写真協会選抜写真展」

今回は「心に届け 私のメッセージ。」をテーマに、9月22日から10月2日まで、作家32人の熱い思いが込められた作品52点が展示されました。人、動植物、そして自然との出会い、ふれあいに来場された方々も感動された展覧会でした。

「市制90周年記念特別展 絹谷幸二展」

絹谷幸二氏は、昭和62年博物館開館にあわせエントランス壁面に「あやなすまち一宮 ひとひと ひともよう」と題すアフレスコ画を描きました。全長22ｍ余に及ぶ作品は一宮の地を表象しています。現在の日本の洋画界の牽引者である絹谷氏は、その作品を通じてさまざまなメッセージを発信し、同時代を記録し、また未来へとその思いを託されています。

10月8日から11月27日まで開催された展覧会では代表作50点が並び、観覧される方々は作品に込められたものに強く惹きつけられ、大きな感銘をうけておられました。

▲ 絹谷幸二展

「2011一宮市現代作家美術秀選展」

12月3日から18日まで、第69回一宮市美術展での各部門の依頼出品者の選りすぐり作品や市長賞受賞者の作品など作家の熱意あふれる87点を展示しました。

この時期、博物館周辺は晩秋から初冬のきりりとした澄んだ空気に包まれ、落ち着いた雰囲気の中でご鑑賞いただきました。

［題　　字］武　山　翠　屋
［編集・発行］一宮市芸術文化協会

［連　絡　先］一宮市芸術文化協会事務局（市教育委員会生涯学習課内）
〒493-8511　愛知県一宮市木曽川町内割田一の通り27番地
TEL 0586-84-0013 ／ FAX 0586-86-1809